

■平成29年度新潟県埋蔵文化財センター巡回展

縄文の造形美－六反田南遺跡－の紹介

糸魚川市六反田南遺跡は、日本海から約200m内陸の標高3.5～4.5mに位置します。平成18～25年に行われた発掘調査の結果、縄文時代中期前葉～中葉（約5,000年前）の集落が見つかりました。集落は洪水層によって厚く覆われていたため、^{たてあな}竪穴建物や土坑からなる居住域と土器や土砂などを捨てた^{はいき}廃棄域、そして、両者を区画する石列が良好な状態で見つかりました。

廃棄域からは500点あまりの全形を復元できる縄文土器が出土し、当時の文様や器形の特徴が明らかになりました。本遺跡は新潟県の西端にありながら、土器は富山県側に広がる北陸の文化圏に属します。土器の文様は、粘土紐の貼り付けによる^{きょりせんもん}曲隆線文で器面全体を覆い、流麗で躍動的な特徴を持ちます。また、長野県や新潟県中部の信濃川流域、東北からの影響が見られる土器も混じります。こうした背景によって、当遺跡独特の土器も生み出されました。これらの土器は縄文時代の造形美と地域の交流を現代に伝えます。

本展は、県内3か所を巡回展示しますので、ぜひご来場ください。

(荒川 隆史)

◇期日・会場 平成29年7月8日(土)～8月27日(日) 十日町市博物館 (十日町市西本町)

平成29年9月9日(土)～10月29日(日) フォッサマグナミュージアム (糸魚川市一ノ宮)

平成29年11月25日(土)～12月17日(日) 新潟県立歴史博物館 (長岡市関原町)

◇観覧料 各会場とも無料

※埋文にいがた98号でお知らせした開催期日が変更となりましたので、ご注意ください。



半円の区画と高台を持つ六反田南遺跡独特の土器



貝を模した突起を持つ土器



長野県の影響を受けた土器



六反田南遺跡独特の土器

平成29年度 本発掘調査遺跡・整理遺跡の紹介

平成29年度は、本発掘調査を村上市上野遺跡、阿賀野市土橋北遺跡、柏崎市丘江遺跡、南魚沼市六日町藤塚遺跡・余川中道遺跡の5遺跡、整理作業を阿賀野市境塚遺跡・蕪木遺跡、糸魚川市六反田南遺跡（前頁参照）の3遺跡について実施しています。

かみの 上野遺跡 (村上市猿沢) 国道7号朝日温海道路事業



みおてがわ 三面川の支流である高根川の右岸に立地する縄文時代後期（約4,000年前）の遺跡です。

(小野本 敦)

どばしきた 土橋北遺跡 (阿賀野市百津) 県営湛水防除事業安野川5期地区



縄文時代晩期を中心とする遺跡です。川沿いに土器がまともって多数出土しています。

(佐藤 友子)

むいかまちふじつか 六日町藤塚遺跡 (南魚沼市余川) 国道17号六日町バイパス事業



古墳時代中期～後期の遺跡です。調査を始めたばかりですが、古墳時代の土器が出土しています。

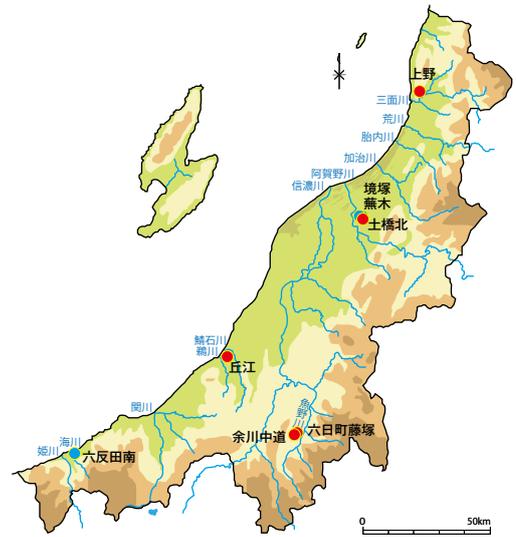
(山崎 忠良)

さがつか 境塚遺跡 (阿賀野市百津) 国道49号阿賀野バイパス事業



鎌倉・室町時代に、内陸水運交通の要所にあり、町場集落に発展した遺跡です。

(飯坂 盛泰)



遺跡位置図

おかえ 丘江遺跡 (柏崎市田塚) 国道8号柏崎バイパス事業



上層と下層の2面の調査を実施します。上層では中世から近世の水田跡や水路、井戸などを検出しています。

(加藤 元康)

よかわなかみち 余川中道遺跡 (南魚沼市余川) 国道17号六日町バイパス事業



古墳時代主体の遺跡で、以前の調査で古墳時代の祭祀跡などがみついています。これから調査する予定です。

(山崎 忠良)

かぶき 蕪木遺跡 (阿賀野市堀越) 国道49号阿賀野バイパス事業



大型掘立柱建物を検出した平安時代（9世紀）の遺跡で、現在、出土品の実測をしています。

(鈴木 俊成)

埋文コラム

あかうるしぬ いとだま
縄文時代の赤漆塗り糸玉

新発田市青田遺跡から出土した赤漆塗り糸玉は、縄文時代の文化を知るうえで大きく二つの意味を見出すことができます。一つは、縄文時代から盛んに行われていた植物繊維と漆の利用です。この糸玉は植物繊維の束2本を右捻りした直径約1mmの糸を素材としています（図2）。こうした糸は編布にも利用され、様々な用途に使われていました。この糸にベンガラ漆を塗って漆糸を作り、15～20本を束ねて結び目を付けたのが糸玉です。漆糸は繊維上に直接ベンガラ漆1層を塗ったものや、漆を塗った後にベンガラ漆3層を塗り重ねたものがあります。いずれも結び目上からベンガラ漆が塗られた痕跡がないため、漆を塗った後に漆糸の変形作業が行われていました。こうした可塑性を持つ漆製品は縄文時代特有の漆工技術として注目されます。

もう一つは、糸玉の用途についてです。糸玉の出土地点は腕輪状漆製品や土偶と重なるものも多く、装身具や祭祀具の可能性があります。一方、小林達雄氏（國學院大學名誉教授）は結び目の数や配置などによって記録や伝達の手段とする「結縄」の可能性を指摘しています。結縄はアメリカ大陸などの文字を持たない時代の社会に見られ、日本では沖縄の「藁算」が有名です。青田遺跡の糸玉の長さは最大18.2cm、幅は最大2.1cm、最小0.8cmです。結び目はすべて一重結びですが、結び目の間隔を置かずに連続させるもの（図1）が13点、間隔を空けるもの（図3）が4点あります。連続するものの結び目数は2連～6連を確認でき、間隔を空けるものには5～8mm間隔で結び目を1つずつ付けるものや、2個1対の結び目を約5cmの間隔で付けるものがあります。そして、同時期の阿賀野市山口野中遺跡で4点（図4）、福島県三島町荒屋敷遺跡で15点、さらに奈良県御所市京奈和自動車道関連遺跡D北区でも確認され、国内の広範囲に普及していたと考えられます。このように、豊富な数と規格性・広域性が認められる赤漆塗り糸玉は縄文時代の意思伝達具の可能性があるのです。

（荒川 隆史）



図1 連続する結び目を持つもの



図2 図1の漆糸の繊維束の様子



図3 間隔を空ける結び目を持つもの



図4 山口野中遺跡の糸玉

東日本大震災復興支援発掘出土品展と関連講演会を開催します

東日本大震災の復旧・復興事業に伴う

埋蔵文化財調査支援の職員派遣とは

平成23年3月11日午後2時46分に発生したマグニチュード9.0の大地震。地震に加え、津波による甚大な被害は人々の記憶に深く刻まれています。東日本大震災からの6年。被災地の復旧・復興にあたり必要な遺跡の発掘調査のため、特に被害の大きかった3県（岩手県・宮城県・福島県）に全国から埋蔵文化財専門職員が派遣されていることは御存じでしょうか？

復旧・復興に伴う発掘調査の取り組みは、オールジャパンで行われています。新潟県では平成24～28年度の5年間は宮城県に、平成29年度は福島県に埋蔵文化財専門職員を派遣しています。



やましたたてあと ほり
山下館跡の堀（山元町教育委員会提供）

東日本大震災復興支援発掘出土品展・関連講演会

新潟県が派遣した埋蔵文化財専門職員が宮城県で発掘調査した遺跡の出土品を展示し、職員が関連講演会で調査成果と復興への思いを語ります。県外の出土品の展示や調査成果の講演は、またとない企画です。是非、会場の新潟県埋蔵文化財センターへお越しください。

◆東日本大震災復興支援発掘出土品展

会 期 平成29年7月14日(金)～9月3日(日) 9:00～17:00 (休館日なし)

展示内容 多賀城市山王遺跡(古墳～平安時代)、山元町合戦原遺跡(飛鳥～奈良時代)など

◆関連講演会「わたしが掘った宮城県の遺跡」(全2回)

①平成29年7月23日(日) 13:30～16:30 (希望者に16:05～16:30まで展示解説を行います。)

高橋保雄 多賀城市山王遺跡(古墳時代の豪族居館、貝塚など)

山崎忠良 南三陸町新井田館跡(中世の山城)

②平成29年8月27日(日) 13:30～16:30 (希望者に16:05～16:30まで展示解説を行います。)

石川智紀 山元町山下館跡(中世の山城)・山元町合戦原遺跡(奈良時代の製鉄炉跡)

飯坂盛泰 山元町合戦原遺跡(飛鳥～奈良時代の横穴墓)

(新潟県教育庁文化行政課 三ツ井 朋子)



たまらい ぼうすいしゃ
合戦原遺跡の玉類と紡錘車(山元町教育委員会提供)



はじき
合戦原遺跡の土師器(山元町教育委員会提供)

埋文インフォメーション

新潟県埋蔵文化財センター

親子考古学教室を開催します

今年も夏休み恒例の親子考古学教室を開催します。本物の縄文土器をさわって観察し、写真を撮ったりスケッチしたりすることができます。そして、オープン陶土を用いた土器作りなどを体験します。作った作品は当日お持ち帰りいただけます。クイズを解く催しもあります。ワークブックに見たこと・分かったこと・感想を書き、写真を貼ると、夏休みの自由研究が完成です。親子で考古学を学んでみませんか？

- 日 時…平成29年8月14日(月)・20日(日) 午前の部9:00~12:00、午後の部13:30~16:30
- 内 容…午前の部は火起こし体験と縄文プレート作り。午後の部は土器作り体験。
- 対 象…小学4~6年生の子供とその保護者
- 定 員…両日の午前午後とも各回20組40名(先着順。定員になり次第締め切り。)
- 申 込…平成29年7月3日(月)~8月4日(金)



縄文土器をさわろう



親子で土器作り体験



縄文プレート



火起こし体験

少年少女考古学教室(第2~4回)を開催します

平成29年度から新規事業として少年少女考古学教室を開催しています。学年や地域が違う仲間たちと交流しながら、土器や石器などの遺物に触れ、様々な体験活動をとおして古代の人々の知恵や生活を学ぶものです。6月18日(日)に第1回「縄文土器の観察と土器作り体験」を開催しました。遺跡や歴史に興味がある小学4~6年生と中学3年生の14名が参加し、縄文土器がどのように作られたかを実物の観察や縄文原体作りをとおして学びました。そして、輪積み法による土器作りを行い、本物同様の文様を施しました。参加者からとても面白かったとの感想が寄せられました。第2回以降も多くの参加をお待ちしています。

- 内 容…時間はいずれも9:00~12:00
 - 第2回 9/10(日)「竪穴住居の観察と木の実採集」
 - 第3回 11/12(日)「石器や金属器の観察と石器体験」
 - 第4回 1/14(日)「縄文時代の編み物の観察と編み物体験」

■対 象…小学4年生~中学3年生(各回先着20名)

- 受付期間…第2回: 8/1(火)~9/8(金) 第3回: 10/2(月)~11/10(金)
- 第4回: 12/1(金)~1/12(金)



第1回の様子



石器で木の実を割ってみよう

<親子考古学教室・少年少女考古学教室のお申込み>

氏名・学年・住所・電話番号・参加希望日を添えて新潟県埋蔵文化財センターにお申し込みください。
電話:(0250)25-3981 FAX:(0250)25-3986 メール:niigata@maibun.net

県内の遺跡・遺物97

ふきあげ
吹上遺跡と吹上遺跡出土品

ひだ
斐太遺跡群 昭和52年7月国指定、平成20年7月追加指定名称変更 遺跡所在地:上越市大字稻荷字吹上ほか
吹上遺跡出土品 1,320点 平成27年3月新潟県指定有形文化財(考古資料) 遺物保管:上越市



四角に溝で囲い中央に墓坑を掘る:方形周溝墓

たかだ
高田平野西側の丘と水田地帯に弥生時代から古墳時代初めころの遺跡があります。丘には今も竪穴建物の窪みが見える高地性環濠集落の斐太遺跡、山麓の青田川近くの吹上遺跡と釜蓋遺跡。この3遺跡は合わせて国史跡に指定されています。紹介する吹上遺跡は弥生時代中期中葉の今から約2,200年前から古墳時代前期のおよそ1,750年前まで続いた集落です。

ムラができたころは、緑や赤色の石を使った装身具の細形管玉やヒスイ製の勾玉の生産が盛んで、竪穴建物のような工房もあります。ムラの外には水田も拓けていたことが、農具の石包丁から推測されます。中期後半に玉生産が下火になり工房は移り、替わって中期末には方形周溝墓が築かれます。

土器の文様などからこの遺跡の性格が窺えます。中期後半には信州系の赤く塗られた頸の長い壺と北陸系の壺などが一緒にあります。さらに銅鐸形の土製品や石製品なども注目されます。これらの品は各地の人がここで交易を中心に活発に交流していたことを示します。吹上遺跡の周辺は北陸や西日本と信濃を結ぶ要路であり続けたため、これほど各地の特徴を持ったものが見られると考えられます。

吹上遺跡及び釜蓋遺跡の出土品は、北陸新幹線の上越妙高駅の駅前にある「釜蓋遺跡ガイダンス」で見学することができます。(田海 義正)

休館:毎週火曜日 料金:無料 電話:(025)520-7166

参考資料:上越市教育委員会2006『吹上遺跡』主要地方道上越新井線関係発掘調査報告書Ⅰ

写真提供:上越市教育委員会



吹上遺跡出土遺物集合写真

埋文にいがたNo.99

発行 (公財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
〒956-0845 新潟市秋葉区金津93番地1
TEL (0250)25-3981
FAX (0250)25-3986
E-mail: niigata@maibun.net
URL: http://www.maibun.net/
印刷 株式会社ハイグラフィック